

平成 31 年 2 月 15 日

摂津市立味舌小学校
校長 前馬 晋策 様

味舌小学校学校協議会
会長 榎谷 佳純

今後の味舌小学校の運営についての提言

今年度実施された学校評価アンケートの結果概要、分析結果、それをもとにした自己評価を踏まえ、味舌小学校の今後の学校運営についての提言を以下のとおりまとめましたのでお伝えします。

記

今年度、味舌小学校学校協議会において、「安全で安心できる学校」「確かな学力を育む学校」「誰からも愛される学校」の実現をめざした学校の取組みについて詳しく知ることができました。また、学校の課題対応の方策や今後の学校経営・運営のビジョンなどについて、学校の考えに触れることができ、教職員の皆様が、児童の成長を願って、日々教育活動に真摯に取り組んでおられることも理解できました。それらを踏まえ、学校に関わる様々な立場から意見を述べることができたことについて、学校協議会の意義を感じるとともに、我々も開かれた学校づくりのために教職員の皆様とともに取り組みたいと考えています。

前述のめざす学校像は、学校教育目標から設定されたものですが、児童にとって安心して学べ、児童の学力が定着し、児童が心から大好きと言える学校づくりをめざしておられるととらえています。その姿の実現へ向け、今後も教職員が一つになって、全力でお取り組みいただきたく、めざす学校像にそって提言します。

1. 安全で安心できる学校づくりについて

昨年は地震、台風などの大きな災害に見舞われ、改めて防災の取組みの大切さを感じました。そのような中、学校評価アンケート（以下、アンケートと記す）において、防災等に関する評

価が保護者からも児童からも高く、この点については今後もさらに研究を続けていただきたいと思えます。

「学校が楽しいか？」という質問に対し、高学年児童の約5分の1が否定的回答をしていることは気になります。相談できる先生がいない、相談しにくいと回答する児童の割合も低くなく、今後児童の相談窓口の周知に努めていただくとともに、改めて「どの先生も話を聞いてくれる」学校の雰囲気づくりに取り組んでいただきたいと思えます。そのことが様々な課題のある児童にとって安心できる学校になることにつながるのではないのでしょうか。

学校で必要なルールの浸透は着実に成果を上げておられると感じています。また、学校行事についても保護者、児童から広く支持され、今後もメリハリのある学校生活を児童が送れるよう、取組みを進めていただきたく存じます。

校長は常に積極的に発信し、学校の考えを明らかにされています。その点は評価しますが、学校は学校外の人にとっては難しい言葉を用いることがよくあります。校長を含め、学校が今後、さらに誰にもわかりやすい発信に努めていただくことが安全・安心の学校づくりにつながるのではないのでしょうか。

学校の教職員は大変忙しく、働き方改革を早急に行わねばならないと言われていています。今回のアンケートの自由記述にも保護者や児童からの記述がありました。そのための方策を講じておられるとは思いますが、教職員のアンケートから経験の浅い教員の育成体制の弱さや気軽に相談できる職場の人間関係についての弱さが浮かび上がってきます。学校現場で教職員が一つになって働くことが、仕事の質のみならず、能率・効率も向上させていくことにつながるのではないのでしょうか。学校だけでは解決できない問題も多々あるとは思いますが、校長を中心に取組みが進展することを望みます。

2. 確かな学力を育む学校づくりについて

教員の忙しさの解消の問題がある一方で、新学習指導要領への対応など、取り組まねばならない課題がたくさんある現状は理解しています。外国語が高学年で教科となり、中学年でも取組みが必修となり、プログラミング教育も必修となります。これらについては、教員研修を実施し、対応できる力量向上に努めていただきたく存じます。

年間を通して授業研究に取り組み、誰もができた、わかったと喜びを感じる授業をめざし、日々努力されていることは理解しています。しかし、アンケートからは授業改善を求める声が児童からも保護者からも上がっており、今後も努力を続けることを望みます。

「一緒に」ということが学力向上をめざした授業改善につながると考えます。様々なサポーターが配置されていますが、分業のために配置されているのではなく、教える教員のよさを引き出すために配置されていると考えるべきではないのでしょうか。外国語、読書などさらに充実が望めると思えます。

家庭学習の充実も学力の定着には欠かせませんが、これも学校と家庭が一緒に取り組むという視点が必要ではないでしょうか。自主学習については、家庭にも趣旨を説明し、取組みが進んでいると伺っています。内容やねらいを共有できれば、一緒に取り組めることはさらに増えます。ぜひよろしく申し上げます。

3. 誰からも愛される学校づくりについて

学校教育活動においての地域との連携は十分行えているととらえています。ただし、その取組みが周知されているのか検証が必要ではないでしょうか。地域コーディネーターと連携した取組み、民生児童委員と連携した取組み、PTA 活動、そして学校協議会の存在など、改めて発信の機会や方法など検討していただきたく存じます。

アンケートでも情報提供の弱さを指摘しています。知っていただくことで興味・関心も高まり、一緒にやろうと考える輪も広がります。学習のこと、生活指導のこと、発信のきめ細かさも含め、今後効果的な発信方法の研究に努めてください。

とは言え、様々な場での校長の情報発信のみならず、学校からの発信の機会は確実に増えています。課題に対しての学校の考えを示す機会もけっして少ないわけではありません。学校ホームページもリニューアルされ、更新も頻繁に行われています。今後、発信で満足せず、受信されたかどうかを確認することにもぜひ努めてください。

また、中学校区でのつながりの強化にはぜひ取り組んでいただきたいと思います。教職員のアンケートでは第一中学校区内での連携の弱さが浮かび上がってきます。様々な取組みを行っておられることは理解しています。しかし、取組みを行うことが目的ではなく、取組みが一中校区内の児童生徒にとって、「安心」で「学び」での成長を実感でき、「大好き」な学校となることをめざしているのだということを常に意識していただきたく存じます。

以上、よろしく願いいたします。